

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：復活！三浦梅園学びの道

事業者名：三浦梅園学びの道復活プロジェクト実行委員会
(中核館：国東市歴史体験学習館)

住所：大分県国東市国東町安国寺1639-2

TEL：0978-72-2677

FAX：0978-72-2505

HPアドレス：<http://www.city.kunisaki.oita.jp/yayoinomura/top.html>



会場：国東市三浦梅園資料館および通称「黒岩往還」旧街道

事業期間：平成21年10月23日～平成22年2月22日

1. 館の使命と本事業の関係

本館の使命の一つである青少年の歴史体験学習において、郷土の偉人三浦梅園の事跡を保存・顕彰する本事業は大きな役割を果たすことにつながる。また、地域の活性化、特に地域における青少年の育成に積極的な役割を果たすことになると考えられる。

2. 企画内容

①事業目的

郷土の先哲、三浦梅園の若き日、学問への情熱に燃えて通った道を復活し、その道について知り、実際に歩くことによって、梅園の学問への情熱を体感する。

②事業概要

少年時代の三浦梅園が、隣村朝来の西白寺に『字彙』を見るために通った道、及び16歳の梅園が杵築城下にある藩儒綾部綱齋邸へ通った「黒岩往還」を地域住民の協力によって復活し、小中学生を中心に住民参加のウォーキングを継続的に企画する。また、三浦梅園の学問と事跡について講演会・企画展を開催する。

事業計画通り、平成21年12月中に富永～杵築までの経路を復元・整備し、平成22年1月に「企画展」「講演会」を実施。2月7日には約150名の参加による「三浦 梅園学びの道ウォーキング」を実施することができた。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

本事業の主な内容は以下の通りである。

- 1) 16歳～17歳当時の三浦梅園が、杵築藩儒綾部綱齋の教えを受けるため、安岐富永村 から杵築城下の綾部綱齋邸まで通った道を復活・整備する。
- 2) 三浦梅園の事跡に関する講演会を開催する。
- 3) 復活・整備した道（「三浦梅園学びの道」と称する）を歩くウォーキングを企画する。

事業の日程

- 1) 10月23日（金）…三浦梅園学びの道復活プロジェクト実行委員会発足
 - 2) 10月27日（火）…現地調査
 - 3) 11月 2日（火）…第2回実行委員会
 - 4) 11月 6日（金）～11月27日（金）…この間、第1回～第4回道路整備作業
 - 5) 12月 4日（土）…第3回実行委員会
- 2010年
- 6) 1月10日（日）～2月10日（水）…「三浦梅園学びの道」企画展
 - 7) 1月17日（日）…講演会・第4回実行委員会
 - 8) 2月 7日（日）…三浦梅園学びの道ウォーキング
 - 9) 2月12日（金）…第5回実行委員会
 - 10) 2月22日（月）…「三浦梅園学びの道」復活プロジェクト報告書発行

(2) 参加者の数

参加者人数	延べ約500人
内 訳：実行委員会	110人
道路整備	75人
講演会	65人
企画展	100人
ウォーキング	150人
ウォーキング参加者内訳	
小学生	27人
中学生	15人
高校生	8人
一 般	100人



(3) 事業により作成した印刷物等

ポスター（A2版）、チラシ（A4版・色刷り）、ウォーキングしおり、報告書

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

平成22年1月13日 大分合同新聞朝刊 →



平成22年2月8日 大分合同新聞朝刊 ↑

併せて、大分合同新聞ホームページ上に、ウォーキングの様子を動画として掲載。

○テレビ、関連誌等

平成22年4月、国東ケーブルテレビ「国東情報レストラン」で「三浦梅園学びの道ウォーキング」の様子を放映

4. 事業の成果及び今後の課題

この「三浦梅園学びの道復活プロジェクト」の成果として第一に挙げなければならないことは、この地域の人々がこれまで思い続けてきた「若き日の三浦梅園の通った道」＝「学びの道」の復活が実現し、それを自分たちで歩けるようになったことである。270年の時の隔たりを超えて、我々が郷里の偉人三浦梅園と私たちが「同じ道を歩く」ということは、これまでも増して梅園という人物を身近なものと実感させてくれる。そして「歩く」ことが「学び」に通じていることは、私たち、特に子どもたちにとって大きな意味を持つことである。

また、このプロジェクトは、この地域を活性化しようと努力している人々を勇気づけるものとなった。これまで「出来ればよいが」と思っていたことが実現した、それを達成したのが自分たち自身の力であったということである。この取り組みに参加した人々の共通の思いであろう。地域を活性化するためには様々な課題があるが、それに向けて行動していく自信となったといえるだろう。

さらに、この16キロを越える「学びの道」は、地域をこれまで以上に結びつける役割を果たす可能性がある。峠を越え谷を越えて富永と杵築を結ぶ道はその途上の人々の生活を結ぶ道でもある。かつてはそうであった道が、今、再び蘇ろうとしている。今回のウォーキングに地元だけでなく県内各地から多くの人々が参加してきたことは、道による人々の交流がさらに広がる可能性も含んでいるであろう。

しかし、ほぼ予定したとおりの参加者数があったものの、まさに三浦梅園がこの道を通った年齢、つまり16歳前後の参加者が少なかった。我々がこの道の復活に込めた思いの一つは、若い人々に「学びへの情熱」を体感してもらいたいということであった。青少年の参加、特に高校生の参加をもっと追求すべきであった。

今後の課題として、地域の文化遺産として、重要な人物の事績を顕彰し復活するこの事業を機縁とし、地域住民が参加し、その成果を青少年を中心に伝承していく事業の展開を図り、地域活性化や青少年の健全育成に資する地域ネットワークの形成に繋げていく。